

ぎぎが浜の由緒

この地には松浦党の祖
源久松公が上陸された
ところである

源久公は 嵯峨天皇の皇孫であつて
肥前御厨の庄の檢校（のち檢非違使）
として今福に下向された

嘉保二年（一〇九五）この浜に
着船上陸されたとき 輿のきしみが
「ぎいぎい」と砂に伝わり 歩けば
美しいひびきを立てるようになったので
この地名が残っている

祝宴を催され琵琶を奏でられたところを
「琵琶の久保」 船をつながれたところを
「船形池」「綱取石」と云はれていて
最近まで残っていた白砂を踏めば
鳴る青松の浜も鉾害のため
以前の面影はなくなつた
上陸八百九十年にあたりその由緒を
標しこの碑を建てる

昭和六十一年十一月吉日

浜の脇部落建立

